

# 認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例3 異食

## 【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD(行動・心理症状)への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

## 【事例3】

Cさん、80代、男性、特別養護老人ホーム入所。  
脳血管性認知症

ときどき異食することがあり、職員は常日頃から注意していた。ある日、リビングのテーブルに座り、口をもぐもぐ動かしているCさんに職員が気づき、慌てて口の中を確認すると大量のティッシュペーパーを噛んでいた。

## 【事例3(続き)】

職員が「ティッシュは食べ物ではありませんよ！すぐに出してください！」と慌てて制止し取り上げようとするも、何も聞こえていないような素振りで制止を振り切りティッシュを食べてしまった。

## ワーク1

# Cさんの異食の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や  
心理面・身体面・環境面の影響など、  
考えられること・思いついたことを  
あげてみましょう

## ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？  
問題と思う点をあげてください。

## ワーク3

あなたならどう対応しますか？  
適切な対応方法を考えてみましょう。

## 【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

お疲れ様でした。